



平成 27 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
 (J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 取 締 役 杉 本 卓 士
 電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 28 年 3 月期第 2 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
前年同期実績 (平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (A)	2,514	304	326	254
当期実績見込み (平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (B)	1,444	△598	△509	△239
増 減 額 (B - A)	△1,070	△902	△835	△493
増 減 率 (%)	△42.5	—	—	—
(ご参考) 平成 27 年 3 月期実績	4,806	439	471	430

2. 差異が生じた理由

当第 2 四半期連結結果計期間におけるわが国経済は、公共投資が減少傾向となり、輸出は新興国経済の減速から次第に伸び悩みました。しかし企業業績の改善から設備投資が増加、住宅投資にも持ち直しが見られ、雇用の改善もあって個人消費も底堅く推移するなど、緩やかな回復傾向が続きました。

商品市況は、貴金属は米国の利上げ観測によるドル高に圧迫されながらも金が反発、石油は中東情勢の緊張を背景として上昇した後、需給緩和見通しが強まり急落しました。穀物は米国の天候不安による上昇を経て豊作見通しが強まるに連れ反落し、全国市場売買高は 25,518 千枚（前年同期比 129.2%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料につきましては、主力である貴金属市場における受取手数料が落ち込んだこともあり 1,170 百万円（前年同期比 52.5%）となりました。また、売買損益につきましては、貴金属市場における売買損益が利益となったこともあり、35 百万円の利益（前年同期比 135.2%）となりました。

この結果、営業収益は 1,444 百万円（前年同期比 57.5%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては、2,043 百万円（前年同期比 92.5%）となる見込みであります。これらにより、営業損失は 598 百万円、経常損失は 509 百万円となる見込みであります。これに加えて、平成 27 年 8 月 10 日付「特別利益（投資有価証券売却益）の発生に関するお知らせ」で公表いたしました通り投資有価証券売却益 308 百万円の特別利益を計上したことなどから親会社株主に帰属する四半期純損失は 239 百万円となる見込みであります。

以 上